

# 令和の米騒動から米余りへ： 「消えた在庫」の真実

需給構造の可視化ダッシュボード・導入レポート

# わずか2年で起きた、異常な振れ幅

The Panic - 2024

## 156万トン

2024年6月末 民間在庫（過去最低記録）。  
スーパーから米が消えた「令和の米騒動」。

The Surplus - 2026

## 243万トン

2026年6月末 民間在庫（過去最大級）。  
価格下落が続く「米余り」。

日本国内の「米の総量」は、大きく変わっていなかった。



では、なぜスーパーから米が消えたのか？

流通量は変わっていないのに、店頭から商品が消えるパラドックス。

# 謎を解き明かすための「計器盤」

令和の米騒動から米余りまでの複雑な需給構造を、公開データをもとに可視化したインタラクティブ・ダッシュボード。



# ダッシュボードを駆動する3つの重要指標

2024年 夏の最低在庫水準

**156万トン**

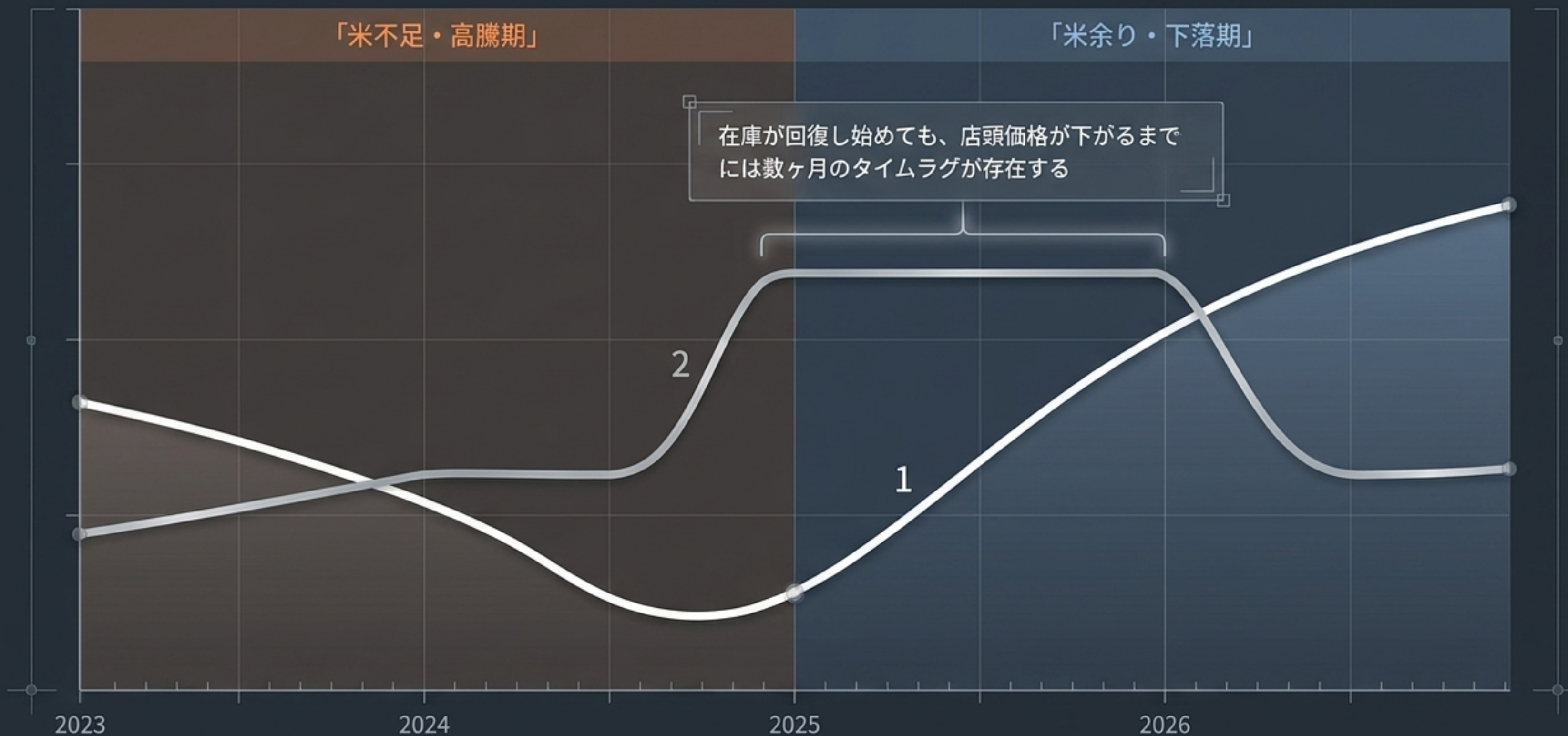
2025年 秋のピーク価格  
(コシヒカリ5kg)

**5,448円**

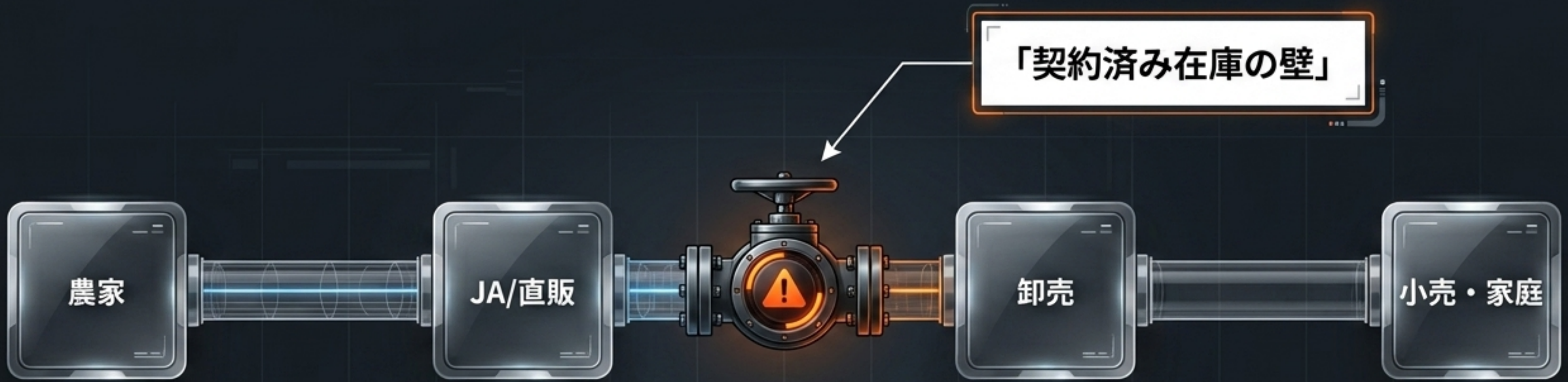
2026年 6月末時点の民間在庫

**243万トン**

# 在庫回復と価格下落の「タイムラグ」



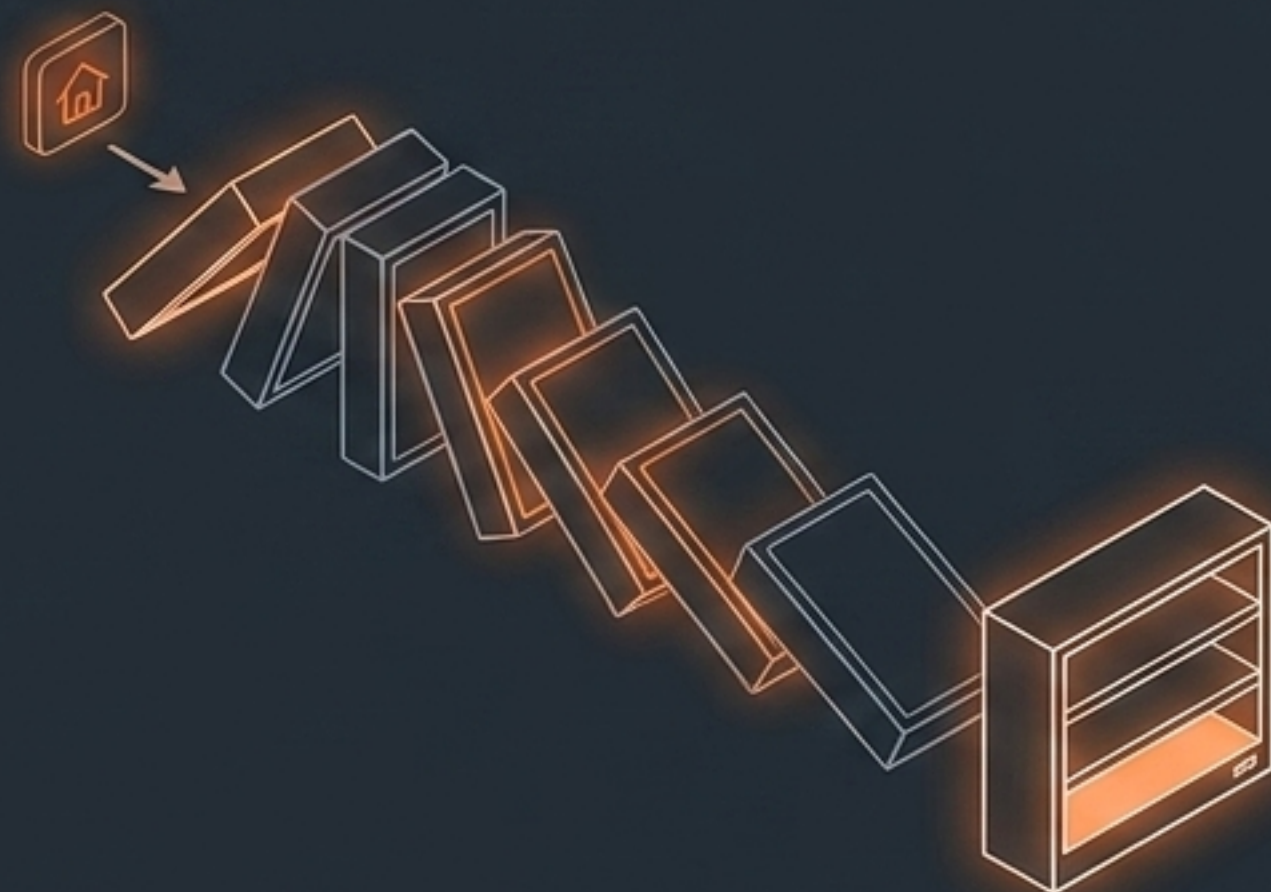
# 流通パイプライン：どこで「目詰まり」が起きたのか？



# 「消える在庫」を再現するシミュレーター



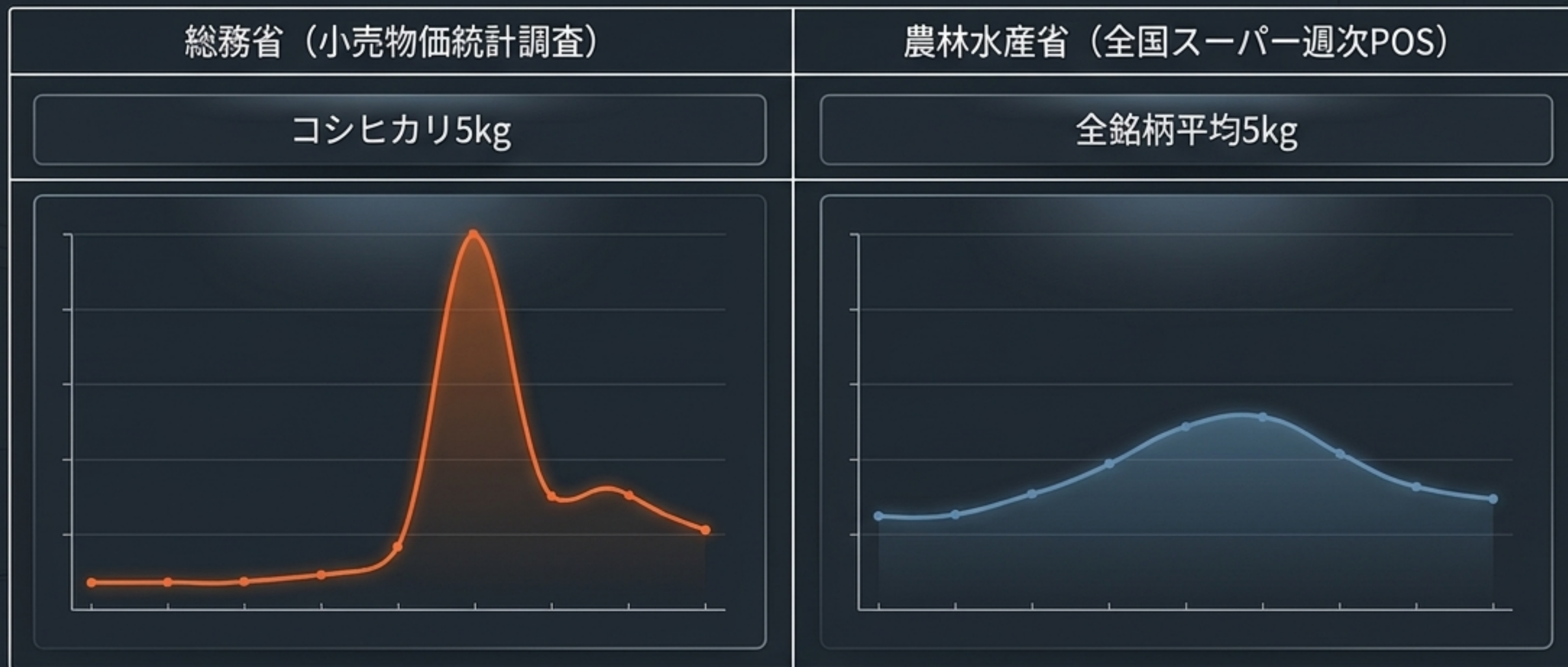
家庭内備蓄の微増



市場から米が消失

統計と体感のギャップ。国内の総量が変わらなくても、家庭内備蓄が少し増えるだけで市場から米は「消失」する。

# どのデータを見るか？「価格指標の錯覚」



異なる公表指標を並べることで、高騰時のピーク価格と現在価格の見え方がどう変わるかを比較・検証。

# 事象の多面性：立場によって変わる「正解」

2024年の品薄原因

消費者視点

2026年の米余り評価

構造的要因



パニック要因

農家視点

備蓄米の放出タイミングも含め、専門家の間でも評価は分かれる。  
一つの視点に偏らず、全体像を俯瞰する。

# 当サイトのスタンスと独立性



## TK MAX 金融・経済レポート

非営利・独立系の個人研究シミュレーター（広告・有料コンサルなし）。

公開統計や投資銀行レポートをリアルタイムで可視化。

危機を煽るのではなく、パズルをどう解釈するかは「視聴者」に委ねる中立的スタンス。

本コンテンツは独立した研究・分析であり、投資助言や政策提言を目的としません。推計値を含み、正確性を保証するものではありません。ご自身の判断でご活用ください。

真実は、あなたの手で  
シミュレーションしてください。

<https://tk-max-site.vercel.app/>



複数のシナリオをワンクリックで切り替え、連鎖的な影響（ドミノ効果）を今すぐ体感。